

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽光小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語	42	人
② 算数	42	人
③ 理科	42	人

5 留意事項

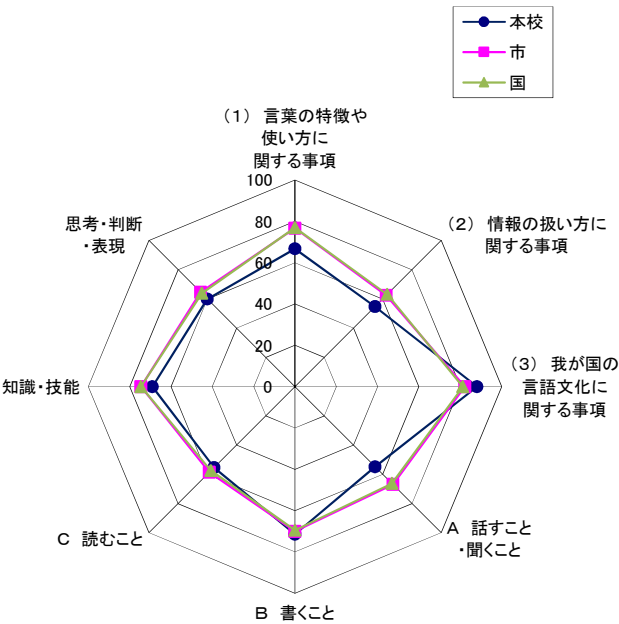
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽光小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	66.7	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	54.8	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	88.1	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	54.8	67.0	66.3
	B 書くこと	71.4	70.0	69.5
	C 読むこと	55.4	58.6	57.5
観点	知識・技能	69.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	60.0	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

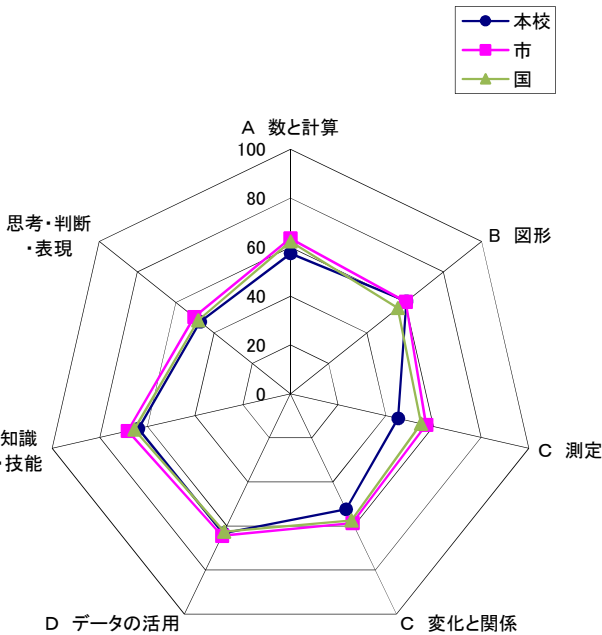
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、66.7%と市や国の平均を下回っている。 ●漢字の書き取りの正答率が低く、既習の漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかの問題の正答率は、市や国を大きく下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習では、習得した語句を文や文章の中で進んで使えるよう、国語の授業以外でも確認しながら指導していく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は54.8%と市や国の平均を下回っている。 ●情報と情報の関連付け方や語句と語句の関係の表し方の理解が不十分である。ウェビングマップは、授業の中で体験してきているが、その特徴を把握できていなかった。	・様々な学習において、文だけでまとめるだけではなく、図を使って視覚的に分かりやすくまとめたり、関連することを矢印や色分けをして整理したりするなどして、個々の情報をつなげることができるようにする。 ・情報の整理の仕方や表し方を学習するときには、表し方とその特徴を確認して、目的に合った表し方に気付けるようにしていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は88.1%と、市や国の平均を上回っている。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる。	・辞書を活用し、分からない言葉を調べる癖をつけるなどして、語彙を増やしていけるようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は54.8%と、市や国の平均を下回っている。 ○自分の聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える問題は、市や国の平均と同程度の正答率であった。 ●日常生活から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題の正答率は、市や国の平均を大きく下回っている。	・話し合い活動では、全員に発言する機会を設けるなど、話し合いに参加し、意見を述べる機会を多く作る。 ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるよう、授業の中で繰り返し練習をする。
B 書くこと	平均正答率は71.4%と、市や国の平均を上回っている。 ○図表などを用いて自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができるかどうかを問う問題の正答率は、市や国の平均をやや上回っている。 ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかの問題の正答率は、市や国の平均を上回っている。	・目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるよう指導していく。
C 読むこと	平均正答率は55.4%と、市や国の平均をやや下回っている。 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えることができるかどうかを問う問題の正答率は、市や国の平均を上回っている。 ●目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけることができるかどうかの問題の正答率は、市や国の平均を大きく下回っている。	・朝の読書や教科書の音読などで「読む」経験の日常化を図り、まとまった文章を読み取ることへの抵抗感をなくしていきたい。 ・国語の時間だけでなく、社会科や総合的な学習の時間など、他教科との関連を図り、必要な情報を読み取る力を育てたい。

宇都宮市立陽光小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	57.4	63.6	62.3
	B 図形	60.7	60.4	56.2
	C 測定	45.2	56.9	54.8
	C 変化と関係	52.4	58.6	57.5
	D データの活用	63.3	64.4	62.6
観点	知識・技能	63.8	68.3	65.5
	思考・判断・表現	47.3	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

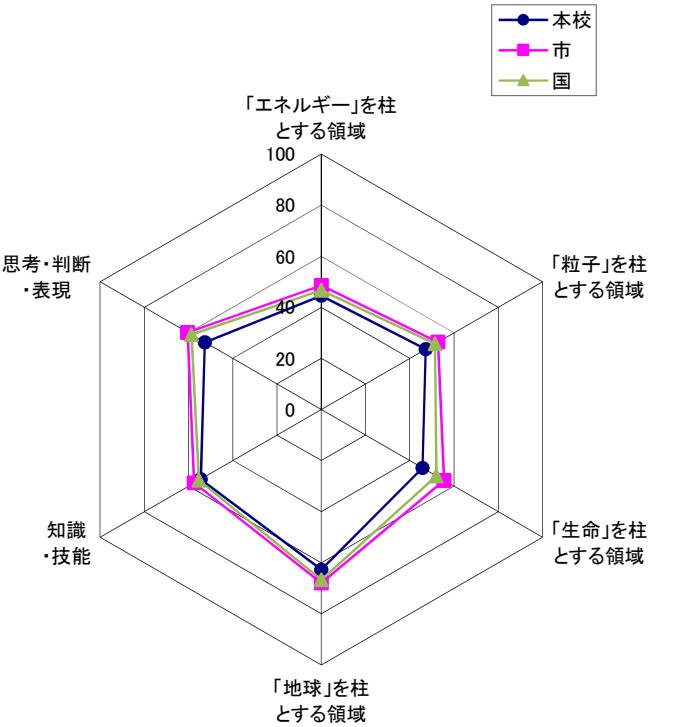
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、57.4%と市や国の平均を下回っている。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみることは85%以上の児童ができています。 ●小数や分数の加法について、もとにする数で大きさを捉えたり、関係をみたりすることに課題が見られる。	・示された資料から必要な情報を選び、立式する問題に慣れさせるようにする。 ・小数や分数の大きさを数直線に示して視覚化し、計算するように指導する。
B 図形	平均正答率は、60.7%と市や国の平均を上回っている。 ○平行四辺形の作図や台形の意味や性質から図形を求める問題の正答率は、県や国を上回っている。 ○五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形を分割し、それぞれの図形の面積の求め方を式や言葉を使って記述する問題の正答率は、県や国と同等である。	・平行四辺形や台形、その他の四角形の辺の位置関係や角の大きさなどの性質を確認し復習していく。 ・基本図形を分割して面積を求める方法を紹介し、考え方の幅を広げていけるようにする。
C 測定	平均正答率は、45.2%と市や国の平均を大きく下回っている。 ●問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の求め方を式や言葉を使って記述する問題に課題が見られる。 ●はかりの目盛りを読む問題の正答率は50%であり、半県や国を下回った。	・全体で問題を読み、必要な数値を選んだり、比例の関係を確認したりする場を作っていく。 ・授業や家庭学習等で、重さや長さの単位を確認したり、適切な目盛りを使つての読み方を復習したりする。
C 変化と関係	平均正答率は、52.4%と市や国の平均を下回っている。 ○伴って変わる二つの数量に着目し、必要な数量を見出す問題の正答率は85%を超えている。 ●「10%増量」の意味を解釈し、割合を求める問題に課題が見られる。	・記述式の難しい内容であるので、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図っていく。
D データの活用	平均正答率は、63.3%と市や国の平均を上回っている。 ○目的に応じて適切なグラフを選択し、比較量の増減を言葉や数を用いて記述する問題の正答率は県や国より大きく上回っている。 ○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができる。	・示された資料の中から必要な数値を取り出して説明するために、自分の考えを友達に伝え合う場を設定してきた。こうした試みが功を奏しているため、今後も継続していく。 ・読み取りが難しい児童には、グラフの縦や横の軸に何が表されているのかを確認し、項目間の関係を正確に読み取れるように個別指導する。

宇都宮市立陽光小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	44.6	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	47.2	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	45.8	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	62.7	67.9	66.7
観点	知識・技能	54.5	57.5	55.3
	思考・判断・表現	52.6	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は44.6%と市や国の平均を下回っている。 ○電磁石の強さが巻数や回路のつなぎ方によって変わることについての知識が身に付いていることを確かめる問題では、県や国の平均を上回っている ●条件に合わせた回路のつくり方を考える問題では、県や国の平均を大きく下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・手順や安全をしっかりと押さえたうえで、課題としている実験だけではなく、児童が疑問に思ったことを実際に行うことで、応用的な力が身に付くように授業を構想していく。 ・今後も実験の結果から考察することをより充実させ、自分の考えを書いたり、友達と意見を交流させたりしながら、理科に関する表現力を高めていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は47.2%と市や国の平均を下回っている。 ○水の温まり方について調べる必要があることを書いたり、海の氷が減少した理由について選択肢から回答したりする問題では、県や国の平均と同程度の正答率であった。 ●(「地球」を柱とする領域とも関連しているが)水の蒸発や結露について、温度の影響で水の状態が変化をする問題については、県や国の平均を下回り、特に蒸発に関するものは大きかった。	・普段行っている実験が、生活や地球環境の変化との関連があることについて教師が話したり、紹介したりすることで科学的な思考をさらに深めることができるように指導をする。 ・図書資料や映像資料などを活用し、様々な自然現象についての理解の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は45.8%と市や国の平均を下回っている。 ○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかをみる問題では、国の平均と同程度の正答率だった。 ●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現できるかをみる問題では、県や国の平均を大きく下回った。	・発芽するための3つの条件は分かっているが、調べたい条件だけを制御した解決の方法について再確認する。 ・授業中の気づきや自分の考えを記述してまとめることを習慣化させていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は62.7%と市や国の平均を下回っている。 ○氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかをみる問題では、県や国の平均を上回る正答率だった。 ●水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかをみる問題では、県や国の平均を大きく下回った。	・水の温度による状態変化についてもう一度確認し、特に「水蒸気」「湯気」「蒸発」が水のどういう状態を指すのかを調べたりまとめさせたりして知識の定着を図る。

宇都宮市立陽光小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の設問では、93.1%、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の設問では、95.5%と高い肯定的割合を示している。引き続き、規則正しい生活を送れるように、家庭にも呼びかけていきたい。

○いじめに関しては、どんな理由があってもいけないことだと95.4%の児童が肯定的回答を示している。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問には、97.8%の児童が肯定的に回答している。これからも、道徳や学級活動の時間などを活用しながら、いじめを許さないという態度を育て、友達同士助け合えるような学級づくりに努めていきたい。

○話し合い活動では、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という設問で、肯定割合が90.9%と県や国の肯定割合より高く、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の設問でも88.6%の高い肯定割合であった。今後も、様々な場面で自分の考えを発表する機会をもち、自信をもって自分の考えを伝えられるようにしていきたい。

○国語や算数の学習については、将来、社会に出た時に役に立つと考えている児童が97%以上で県や国の肯定割合より高い。学習に対する意識を生かして主体的に学べるような授業展開を工夫していきたい。

●「1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という設問に対して、30分以上1時間未満が最も多い。また、土曜日や日曜日など学校が休みの日の勉強時間は、1時間未満の児童が最も多いが、次いで1時間未満の児童が多い。今後も家庭との連携を図りながら、家庭学習を計画的に、一定時間取り組めるように継続して指導していきたい。

●読書については、家庭に26冊～100冊本があるとの回答が最も多かった。しかし、全体的に本に親しんでいる様子が見られないので朝の読書の時間や学校図書館の利用の充実を図り、児童が読書に親しめるように努めていきたい。また、新聞を読んでいる児童は87%と多い。国語や社会科等で新聞を活用する機会を増やしていきたい。

●国語の文章を書く問題では、約2割、算数のわけや求め方を書く問題では3割以上も解答しなかったり、途中であきらめたりしたという児童がいたので、粘り強く最後まで解答を書くことを普段から努力させたい。

宇都宮市立陽光小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の定着	・基礎力を身に付けるために、朝の学習の時間を活用し、学習内容の定着を図る。 ・AIDリル等を計画的に活用し、個に応じた目標達成を図る。	知識・技能を問う問題では、県や国の平均正答率を下回っているものが多い。国語では漢字、算数、理科では特定の問題に理解が不十分なところが見られた。
読解力・思考力・表現力の育成	・問題文の趣旨やポイントとなる言葉を見つける指導を丁寧に行う。	・条件に応じて自分の考えをまとめたり、説明をしたりする問題では、正答率が低くなり、無回答も多かった。 ・3教科の中では国語が好きと答えた児童が最も少なかった。
言語活動（書く活動）の充実	・言語活動の充実を図る。低学年は文字慣れと視写、中学年は読書と行事作文、高学年はに文脈を捉えた感想交換と意見文に触れるようにする。 ・本時のめあてに対するまとめを、自分の言葉で書く時間を設け、振り返りを実践に行う。	・「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている」が84.1%、「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」が75%、「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている」が88.6%と、各教科で考えを書く活動が行われていると考えていることが伺える。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎的な知識の定着が不十分な部分がある。	・基礎力を身に付ける学習の時間の確保	・朝の学習15分間に課題のある単元の復習問題や応用問題を用意し、集中して取り組ませる。 ・AIDリル等を計画的に活用し、個に応じた目標達成を図る。
限られた時間で文章を理解し、考えをもったり表現したりすることが苦手な児童が多い。	・言語活動の充実（書く活動）の充実	・発達段階に応じて、文章を書く機会を設ける。（低学年は文字慣れと視写、中学年は読書の感想と行事作文、高学年はに文脈を捉えた感想交換と意見文） ・多様な種類の文章を読む機会を設け、たくさんの言葉と出会うことにより、考えを表現する語彙力を高める。